半促成栽培におけるトマト黄化葉巻病の防除指針

令和４年１月

病害虫防除所
農業技術課

トマト黄化葉巻病の多発を防ぐには

1　育苗・定植期の侵入・感染防止**（入れない）**
2　定植後の感染拡大防止**（増やさない）**
3　栽培終了時の残渣処理**（出さない）**
4　耐病性品種の利用

1　育苗・定植期の侵入・感染防止**（入れない）**

・育苗圃場や栽培圃場の開口部に 0.4 ㎜以下の防虫ネットを展張し、コナジラミ類(成虫)の侵入を防ぐ。なお、目合いの細かいネット使用の際は、施設内の温度上昇に注意する。（施設内の高温が心配される場合は、天窓部分の防虫ネットを 0.5～1.0 ㎜程度の目合いにしても、一定の侵入防止効果は期待できる。）
・設置した防虫ネットは隙間や破れ等がないか注意して確認し、破れ等がある場合は直ちに補修する。
・栽培施設の出入口は二重構造にし、開放状態にならないようにする。
・栽培期間中に施設出入口を開けたままにすると、コナジラミ類(成虫)の侵入を助長したり、保毒虫を放出する恐れがあるので、普段から施設出入口は「開けたら閉める」を肝に命じて徹底する。
・ブロアー等がある場合は、施設内に入る前に体についた害虫を除去し、コナジラミ類(成虫)の侵入を防ぐ。
・病害虫の寄生が無い苗であることを確認する。
・育苗期及び定植時の薬剤処理は、初期防除として防除効果が高いため必ず実施する（次ページを参照）。
・栽培圃場に苗を移動する際は、必ず防虫ネットで覆い、コナジラミ類(成虫)を付着させないよう注意する。

2　定植後の感染拡大防止**（増やさない）**

・圃場周辺や施設内には黄色粘着テープ等や銀色反射資材（UV シルバー等）を設置し、施設内へのコナジラミ類(成虫)の侵入を防止するとともに、施設内に入ってしまったコナジラミ類(成虫)を誘殺する。
・定期的に黄色粘着板のコナジラミ類誘殺状況を確認し、発生初期の防除を徹底する。
・コナジラミ類幼虫は葉裏に多いため、薬剤散布の際は葉裏に十分薬液がかかるよう丁寧に行う。
・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う（次ページ 生育期 別表を参照）。
・発病株を発見したらすぐに抜き取り、直ちに防除を行い、１週間後にもう一度防除を行う。
・抜き取った株や芽かきした茎葉は、ビニール袋に入れて枯死させてから持ち出す。
・施設内外の雑草や野良生えトマトはコナジラミ類の増殖源となるため、除去する。
・収穫終了まで農薬散布等コナジラミ類の防除対策を行う。
・産地で栽培終了時期を統一し、トマトを栽培しない期間を作り、次作へのコナジラミ類の持ち越しを防ぐ。

3　栽培終了時の残渣処理**（出さない）**

・栽培終了時には、施設を 10 日間以上密閉し蒸し込み処理し、高温にして生息しているコナジラミを死滅させる。
・十分枯らしてから施設外に持ち出し、ウイルス保毒虫の施設外への逃亡を防ぐ。

4　耐病性品種の利用

・耐病性品種はウイルスに感染しても症状が緩和されるため、積極的に導入を検討する。なお、耐病性品種の栽培においても、コナジラミ類防除は徹底する。

半促成栽培トマトのコナジラミ類防除対策

<table>
<tr><th>時　　期
作業・生育状況</th><th>施　　設　　内</th><th>施　　設　　外</th></tr>
<tr><td>抑制栽培
終了後</td><td>・厳冬期には施設を解放し、冷気にさらすことで施設内のコナジラミ類の越冬を防ぐ。
・作物残渣は必ず十分枯死させてから施設外へ持ち出し、適切に処分する。</td><td>・地域ぐるみで、空き地等の雑草防除
・施設周囲雑草防除</td></tr>
<tr><td>育苗施設

播種または
購入苗到着</td><td>・黄色粘着板・黄色粘着テープの設置
・育苗期後半～定植当日
プリロッソ粒剤オメガ　株元散布　2g／株
または、ベリマーク SC　灌注　薬量 25ml/400 株
（希釈水量 10～20ℓ/400 株）</td><td>・施設周囲には黄色粘着テープや銀色反射資材（UV シルバー等）を設置</td></tr>
<tr><td>定　　植</td><td colspan="2">・施設の開口部に 0.4mm 以下の防虫ネットを展帳する。また、展帳した防虫ネットは隙間や破れ等がないか点検し、破れ等がある場合は直ちに補修する。
・定植時
ベストガード粒剤　植穴処理土壌混和　１～２g／株
または、スタークル粒剤（アルバリン粒剤）　植穴土壌混和　１～２g／株
・黄色粘着板、黄色粘着テープを設置する。</td></tr>
<tr><td rowspan="13">生　育　期</td><td colspan="2">・定期的に黄色粘着板のコナジラミ類誘殺状況を確認し、発生初期の防除を徹底する。
【別表】</td></tr>
<tr><td>RAC
コード</td><td>農薬名　　希釈倍率</td><td>使用時期
(収穫前日数)
使用回数（制限）</td><td>マルハナバチ
影響日数</td></tr>
<tr><td>4A</td><td>ベストガード水溶剤　1000～2000 倍
スタークル顆粒水溶剤
アルバリン顆粒水溶剤　2000～3000 倍
モスピラン顆粒水溶剤　2000 倍</td><td>前日－３回
前日－２回

前日－３回</td><td>10 日
14 日

１日</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ディアナＳＣ　2500 倍
ダブルシューターＳＥ　1000 倍</td><td>前日－２回
前日－２回</td><td>２日
３日</td></tr>
<tr><td>6</td><td>アファーム乳剤　2000 倍
アニキ乳剤　1000～2000 倍
コロマイト乳剤　1500 倍</td><td>前日－５回
前日－３回
前日－２回</td><td>２日
１日
１日</td></tr>
<tr><td>9</td><td>コルト顆粒水和剤　4000 倍</td><td>前日－３回</td><td>７日</td></tr>
<tr><td>23</td><td>モベントフロアブル　2000 倍</td><td>前日－３回</td><td>不明</td></tr>
<tr><td>28</td><td>ベネビアＯＤ　2000 倍</td><td>前日－３回</td><td>１日</td></tr>
<tr><td>30</td><td>グレーシア乳剤　2000 倍</td><td>前日－２回</td><td>１日</td></tr>
<tr><td>34</td><td>ファインセーブフロアブル※1　1000～2000 倍</td><td>前日－３回</td><td>１日</td></tr>
<tr><td>―</td><td>サフオイル乳剤　300 倍
フーモン　1000 倍</td><td>前日－－
前日－－</td><td>１日
翌日(24h)</td></tr>
<tr><td colspan="4">※１　ファインセーブフロアブルはタバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミ含む）適用
※ 同じ系統の薬剤を連続して散布しない。
※ 葉裏に十分薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布する。
※ 予察用に設置した黄色粘着板等は、発生状況を確認できるよう定期的に交換する。</td></tr>
<tr><td>栽 培 終 了</td><td colspan="2">・施設を密閉し、茎葉を十分枯らして、コナジラミ類の成虫、蛹、幼虫を死滅させる。
・土壌へ作物残渣をすき込む土壌還元消毒でもコナジラミ類を死滅させることができる。</td></tr>
</table>